



EQUIOS

User Report : 株式会社ウエマツ

導入翌日から本格稼働へ

オフセット枚葉印刷の受託製造専門会社、株式会社ウエマツは、18台124胴という日本有数の規模を誇る充実した枚葉印刷機をフル活用し、各種印刷物の高画質・短納期を実現している。主要顧客は大手・中堅の優良印刷会社。それだけに、品質と納期の両面で非常に高いレベルが要求される。それらに応え続けようと、設備投資にも積極的に取り組み、2014年10月に1式、2016年2月に2式のEQUIOSワークフローを導入。印刷受託製造専門会社としてのビジネスモデルに、さらに磨きをかけている。



代表取締役社長
福田 浩志 氏

さらなる短納期対応の切り札として「EQUIOS」を導入

ウエマツでは、福田浩志社長が就任した2003年から社内体制の大変革を行い、万全の品質管理体制を構築するとともに、生産量を業界トップクラスまで押し上げた。環境保全活動にも継続して取り組み、同社の戸田工場は“業界のモデル工場”と高く評価され、2012年度の環境優良工場表彰で経済産業大臣賞を受賞した。

「当社のお客さまは、ほぼ100%印刷会社です。ということは、全てのお客さまが印刷のプロフェッショナルだということ。そんなお客さまにご満足いただき、喜んでいただくために、さらなる短納期対応に全社を挙げて取り組んでいます。当然、そ

のために必要な設備投資は積極的に行っています」と福田社長。

EQUIOSを導入するまでは、4台のTrueflowで4台のCTPをそれぞれコントロールしていたため、仕事分散してしまい、進捗の把握にそれぞれのTrueflowの画面を確認しなくてはならなかった。また、専任オペレーターが各Trueflowを担当していたが、出力の種類によっては仕事の分担に偏りが出てしまい、特定のオペレーターに負荷が掛かっていた。しかし、EQUIOS導入以後は仕事の一元管理が行え、進捗も一画面の中で確認できるようになったため、格段に効率が上がったという。さらに、EQUIOSではオペレーターを固定する必要がなく、仕事を適正に配分できるため、データの作成もスムーズになり、CTPの生産性をフルに引き出すことにつながっている。

「ちょうどWindows ServerのOSの問題でRIPの更新時期が来ていたことや、最新ソフトウェアで作成された入稿データへの対応が必要になっていました。それらに加え、タイミング的にもワークフローを見直す時期にきていました。EQUIOSならTrueflowで使用していたホットフォルダ

の移行や、従来の資産をそのまま活用でき、さらに、主要取引先から配信されるデータがOutlinePDF Advance運用に置き換わっていくとアナウンスがあった段階でもあり、先駆けてEQUIOSを導入することになりました」（福田社長）

他社製品と比較検討しても、EQUIOSは自動化・省力化へのコンセプトなど優れている点が多く、実績も豊富な上、オペレーターからも使い勝手が良いと好評。また、SCREENグループの「サポートの信頼性」などに対する期待感が高かったことから、EQUIOSを採用することになった。

オペレーターの教育時間の大幅削減に貢献

立ち上げは極めて速かった。中でもFlatWorkerとの連携については、オペレーションフォローも必要としないほど円滑に進み、導入後丸1日で本格稼働に入ることができた。これまで同社では、新規設備を導入した際にはオペレーター教育にかなりの時間を費やしていたが、今回



は大幅に時間を削減できたため、その分を検版などに割くことができた。

福田社長に具体的な導入効果をお聞きした。

「まず、演算が早くなり、生産性は確実にアップしました。私の感覚からすると、作業効率率は10%から15%ぐらいは上がったのではないのでしょうか。それと、お客さまから急な修正依頼が入った場合でも、柔軟に対応できるようになりました。そして何よりも、プリプレスのレイアウトから配線まで、SCREENから全面的なバックアップを受けられたことが大きかったと思います」

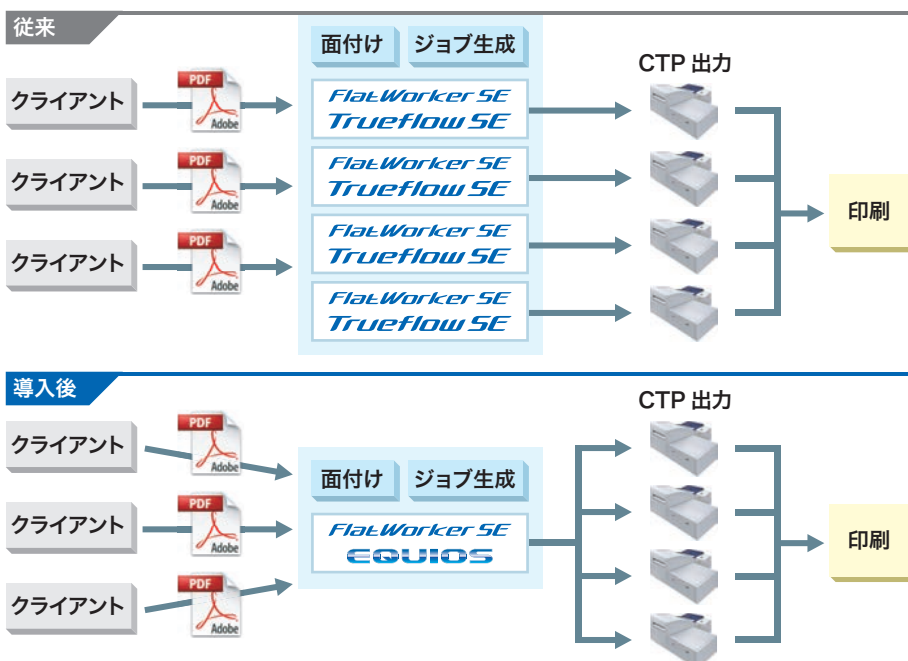
CTP4台をTrueflow4台でコントロールしていた時期と比べ、今では1台のEQUIOSで複数のCTPをコントロールできるようになり、手間は大幅に削減された。EQUIOSの導入は、同社の主要顧客である印刷会社からも好感をもって迎えられ、データの互換性や透過性を担保することができた。



業界のトップサプライヤーと取引している印刷会社としてのプライド

この十数年間、次々に社内革新を成し遂げてきた福田社長は、既に未来を見据えて着実に手を打ちつつある。その一つが、EQUIOSの自動化活用による人材配置の最適化で、これについては近いうち実現したいとのこと。またMISとの連携により、可能な限りEQUIOSのオペレーションの手数を減らし、ミスやロスを撲滅することも目標に掲げている。

福田社長には「SCREENには、Web to PrintやオンラインとRIPを連携させることによって、お客さまからのスムーズな業務依頼やデータ入稿が可能な仕組みづ



くりを推進していただきたい。これからも、業界のトップサプライヤーとして情報提供からサービス・製品提供まで、幅広い支援を期待しています」との前置きにつき、今後のビジョンを次にお話しただいた。

「SCREENは、印刷業界のために製版技術を一生懸命革新されてきました。そして、その技術が半導体やプリント基板などの分野に応用できると分かったとき、勇気を持ってそちらにチャレンジされた。その結果として新しい事業の展開に成功し、今や、それらを収益の柱にされているわけですが、その間、われわれ印刷会社は何をしてきたのか？ SCREEN製品を使って商売をしているユーザーとして、半導体製造装置を使って半導体を作る業界と一緒にいっていかない。それができなかったために、印刷・製版技術が応用できる素晴らしい分野を、他の業界の方々に取られてしまったのです。今、SCREENはプリントドエレクトロニクスという新たな事業領域に踏み出そうとされています。そんな企業とお付き合いさせていただいて以上、われわれもリスクを負ってでも、印刷技術の新たな応用を考えていくべきではないかと思っています」

プリントドエレクトロニクス分野への挑戦の第一歩として、2014年から社員1

人を大阪大学の研究室に2年間派遣し、今年からは別の社員を同じく2年間の予定で送り込んでいる。

「印刷技術は、版を基にオリジナルの物を大量かつ安価に複製することのできる、素晴らしい技術です。その版をつくる技術においてSCREENは、すごい実績と経験をお持ちです。今後、われわれもその後を追いつながら、印刷技術を応用して新たな世界を切り拓いていきたい。当社としては、もしかしたらプリントドエレクトロニクスは一生の目を見ないかもしれませんが、そんな気概だけは持ち続けていきたい」と結んだ。



株式会社ウエマツ

住所 本社 東京都豊島区南長崎3-34-13
戸田工場 埼玉県戸田市笹目8-12-2
代表者 代表取締役社長 福田 浩志
創立 1958年
社員数 200人
<http://www.uematsu-p.com>

SCREEN

株式会社メディアテクノロジー ジャパン

〒135-0044 東京都江東区越中島1-1-1 ヤマタネ深川1号館
<http://www.mtjn.co.jp/>

東京支店 / 03(5621)8266(代) 大阪支店 / 06(6531)0333(代) 名古屋支店 / 052(218)6400(代)
福岡支店 / 092(436)7081(代) 北海道営業所 / 011(726)0707(代) 東北営業所 / 022(224)1741(代)
新潟営業所 / 025(241)0112(代) 静岡営業所 / 054(281)0955(代) 長野営業所 / 026(224)5770(代)
金沢営業所 / 076(292)2345(代) 京都営業所 / 075(326)1350(代) 中国営業所 / 082(264)6451(代)
四国営業所 / 087(837)8151(代)

株式会社 SCREEN グラフィックアンドプレジジョンソリューションズ

本社 〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る四丁目天神北町1番地の1
<http://www.screen.co.jp/gp>

※本カタログは、弊社の千都フォントを使用しています。
※本カタログの各商品名は各社の商標・登録商標です。
※本カタログの仕様ならびに商品デザインは改良のため予告なしに変更されることがあります。
※本カタログに掲載している商品は、日本国内仕様です。